

6次産業化の推進について

1 目的

農林漁業者等の所得の向上や、地域の活性化を図るため、農産物等の生産に加え、新たに加工や販売等の高付加価値化への取組を推進する。

2 推進体制

- 滋賀県6次産業化推進連絡協議会を設置(H23.7)し、農林水産・商工業の関係機関・団体と情報共有を図り推進
- 地域においては、推進会議を設置し、市町・JA等と連携・推進
- 県において、サポート体制を整備し、意欲のある農林漁業者等に、相談窓口の設置や6次産業化プランナーを派遣
 - ・農業技術振興センター・各地域農産普及課に普及指導員による相談窓口を設置
 - ・6次産業化プランナー(農産物加工、マーケティングなどの専門家)の登録・派遣

3 県の取組(平成26年度)

- ・6次産業化プランナーの個別相談(57件)ー総合化事業計画の策定支援、フォローアップ
- ・研修会(6回、のべ262人)ー6次産業化のノウハウの習得(商品デザイン、販路開拓、安全な食品づくりなど)
- ・マッチング交流会(1回、参加者180人)ー販路開拓、関連事業者とのネットワーク化
- ・農林漁業者等が行う新商品試作やマーケティング調査等の取組や必要となる施設・機械導入に対する助成



6次産業化プランナーによる農村女性グループへの個別相談

4 現在の状況

- ・6次産業化法に基づく「総合化事業計画」の認定件数：58件(平成26年12月現在、全国第11位、全国1,982件)。
- ・加工業者と連携し、商品開発を行う事例が多い。
- ・県外での商談会に加工品等を出展する農林漁業者等が現れ始めた。

5 課題

- ・加工商品等の安全性の確保
- ・新商品の開発にかかるスキルアップ
- ・新たな設備導入などの販売計画等を見極めた投資
- ・販路の開拓 など

6 今後の方向

新商品開発から販路開拓に至る一連のスキルアップを進める。

- ・6次産業化プランナー派遣による個別相談や研修の充実
- ・他産業事業者とのネットワーク化の促進

6次産業化の取組事例

(株)Yファーム(草津市) 施設軟弱野菜経営

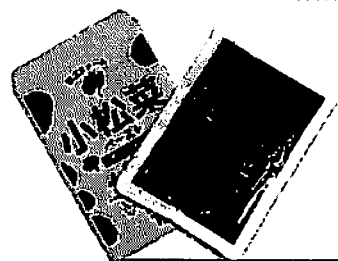
【内容】

小松菜を利用したペースト・ドレッシングの開発と販路開拓

加工業者、製パン業者、大学、学校給食など多様な事業者との連携による取組

【成果】

- ・加工業者と連携したコマツナペースト、ドレッシングの開発
- ・大きさなど規格が外れた小松菜の有効活用
- ・地元直売所、スーパーなどでペースト70kg、ドレッシング200本を販売(5か月)
- ・ペーストの学校給食での利用
- ・製パン業者と連携しペーストを活用した給食用パンなど業務用販路を開拓



Tファーム(日野町) 施設トマト経営

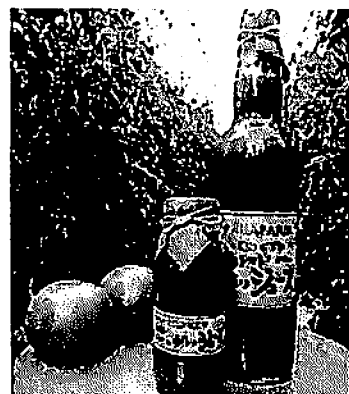
【内容】

・トマトを活用したジュースの開発

6次産業化事業により、加工施設を導入し(H25・9)、ジュースの試作、マーケティング調査を積み重ね、商品開発

【成果】

- ・平成26年4月～、トマトジュースの商品化・販売開始。
- ・H26年度、地元直売所などで3,500本を販売。



Aアグリ(愛荘町) 土地利用型経営(水稲・麦・大豆)

【内容】

米や大豆を活用した菓子等の商品開発

女性スタッフによる商品開発と製造
アレルギー対応の商品開発・販売

【成果】

- ・米・大豆(在来種ミズクグリ)を活用して玄米クッキーや豆乳プリン等の開発・販売
- ・直売所、イベント販売、商談会への参加による販売促進

